



Title	王翰詩研究(二〇〇八年度卒業論文要旨集)
Author(s)	猪野田, 三紗子
Citation	札幌国語研究, 14: 26-26
Issue Date	2009
URL	http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/2519
Rights	

王翰詩研究

漢文学研究室 五〇二一 猪野田三紗子

王翰は初唐から盛唐にかけての時代を生きた詩人であり、その作品で最も有名なものは、『唐詩選』などに収められる七言絶句「涼州詞二首」(其一)である。

本研究の目的は、第一に王翰の作品の特質を探ること、第二にその経歴や交友関係から、伝記史料だけではわからない人物についての新たな一面を探ることであった。

王翰が作品に多く用いた歌行体は、初唐後期に成立し流行した形式である。また、代表作である「涼州詞二首」は、盛唐期に多く作られた辺塞詩に分類されるものである。このように、王翰の用いた形式や題材を見ると、その作品は初唐と盛唐の両方の特徴を併せ持っているということがわかる。

王翰は、玄宗朝で宰相として活躍した張説に才能を見出されて中央に抜擢される。張説の失脚に伴って左遷されるが、その後も祖詠らの詩人と交友があつて応酬した詩が残され、さらに文壇の後輩である杜甫の詩にも、王翰の名を出して高く評価しているものがある。

官吏として活動したのはわずか数年であつたが、王翰は生涯を通じて楽しみを求めたことをやめなかつた。時を逃さずに人生を楽しむという姿勢は、その詩の中でも複数の作品に表現されているのである。